

愛知山労

愛知県勤労者山岳連盟
機関紙

2011年3月25日発行

No. 461 (第43期01号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町2-8 栄和産業(株)ビル2F

TEL/FAX 052-654-1210

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

《目次》

巻頭言	第43期の活動スタート！	2
	東日本大震災の被災者に支援を	
報告	愛知県勤労者山岳連盟 第43回定期総会	3
組織部	愛知県勤労者山岳連盟の登山講座へどうぞ。	6
	4月19日(火)スタートです。登山の基本、教えます！	
教育部	第43期登山学校を開催します	8
自然保護部	3月17日第一回自然保護担当者会議を開催しました。	9
遭対部	4月1日(金)第1回遭対部担当者会議を開きます	10
	4月15日(金)春山合宿遭対連絡会議を開きます	
婦人部	第1回女性のつどいに参加を！	11
スケジュール		12

第43期の活動スタート！

東日本大震災の被災者に支援を

理事長 洞井孝雄

このたびの大震災で被災されたみなさんに心からお見舞いを申し上げます。

3月11日、日本全土を襲った巨大地震と津波は、多くの死者・行方不明者を出しました。壊滅した市町村、地域も少なくありません。それだけでなく、福島原発の被災による爆発や放射能事故の発生による住民の大量避難、「計画停電」の実施などの事態は広範な地域の活動に大きな支障となっています。

全国連盟では、被災地域の支援のための震災対策本部を立ち上げ、募金などの協力を呼びかけています。先日は折からの寒波で、現地では防寒のための衣類が不足していることから、フリースなど防寒具の支援を求めるメールが配信されました。愛知県連ではすぐに各会に転送して、会員みなさんに伝えていただくよう手配しましたが、今後も、対策本部からの「通信」や「訴え」が出される都度、各山岳会に転送・配信して協力を呼びかけていきたいと考えています。これからの現地への支援は、募金活動はもちろん、状況に応じて物資や労力なども必要になってくることでしょう。大震災から2週間、懸命な救出作業が続けられ、救援を待つ人たちや、避難所で不便な生活を強いられている人たちへの支援が強められつつありますが、これから被災者の生活再建やその後のケアなどを含めて、被災地域の復興には相当な時間がかかることと思われまます。この未曾有の大災害の復興に、どうか、みなさんの力を結集していただきたいと思ひます。

さて、第43回県連総会も終わり、新しい活動が始まりました。その数日後に、このような未曾有の大震災が起きたわけですが、幸い、愛知県では大きな被害もなく、平穏な毎日が続いています。支援活動はもちろんですが、同時に県連の活動も立ち止ることなく続けていかなければなりません。総会では、組織拡大、事故防止、財政などについて質問や意見が出されました。これらは、会員拡大を課題にしてきたこと、事故件数がここ数年で最多であったこと、組織数の停滞と軌を一にして財政状況が厳しくなっていることなど、現在の県連の状況を反映しているといえますが、それも多くは質疑応答の範囲内で、侃侃諤諤の討論にはなりません。むしろ、これでいいのか、と思えるほど淡々と議事が進められスムーズに提案が可決されてしまっ、却って心配になってしまうほどでしたが。ただ、ここ数年右肩下がりであった組織数が、ほんの少しであっても増勢に転じたこと、「組織拡大」という課題が正面から受け止められるようになってきていることが大きな変化であるといえます。昨年からの提起され、各会討議と集約をお願いしてきた「個人会員制度」の問題が、それぞれの会の足元を見つめる機会になってきているのかも（だったら、最高ですね）知れません。

当面は、各専門部の担当者会議が各会に呼びかけられるはずで、最初が肝心です。とにかく集ってください。まずは、できるところから始めていきましょう。

報告

愛知県勤労者山岳連盟 第43回定期総会

と き：2011年3月6日（日）9:30～

ところ：愛知県勤労者山岳連盟事務所

愛知県勤労者山岳連盟第43回定期総会が2011年3月6日、愛知県連の事務所で開かれました。出席代議員は23山岳会（定足数51名）のうち、20山岳会（午前:41名、午後:43名）、役員・理事18名。出席者は以下のとおり。

【代議員】馬嶋・長谷・清水（あつた）、天池（アリス）、黒田・伊藤・小鍛冶（犬山マップ）、飯田（おやこ）、佐々木（峠）、尾崎・江島（じねんじょ）、赤塚・野沢（スルジェ）、船田（CAC）、加藤（ちんぐるま）、井土（東海）、佐村（ASC）、亀井・佐藤（同志会）、横井（山歩会）、加藤・近藤・板津（半田F）、藤村・鈴木・内橋・渡辺・鈴木（東三河）、牛田（低い山）、久保田・田中・徳永・染谷・久保・服部・鈴木・辻村・石田・見市・登坂（ふわく）、宮澤（みどり）、北川・西尾・美和（くらら）、樋江井（若駒）【役員・理事】洞井、森、脇田、足立、望月、白鳥、上桐、二宮、吉川、野村、山中、高土、二村、馬場、河合、松野、広畑、宮田、大石

まず、洞井会長が、「昨年から今年にかけて個人会員制導入が提起されてきている。今年2月に全国評議会があった。全国連盟は50周年の節目を迎えている。この節目に新しい制度を、という声や組織拡大のために新しい組織のあり方を考えよう、という声があるが、時代の要請と多くの人たちの山に登りたいという要求によって発足した労山が、いま、組織拡大のために新しい組織を、という提起をしているのは時代の要請なのか、多くの人たちの要求によってなのか、という話をした。組織のあり方を変えらるゝというのであれば、労山はその役割を既に果たし終えたのか、それともまだなのか、これからもその役割をはたしていく必要があるのかを総括する必要がある、という話をしてきた。今回の総会におい

ても、自分たちの会が何の為にあり、どのように活動を進めていくのか、ということを見つめなおしてってもらいたい」と挨拶し、ついで、総会成立状況の報告があった（資格審査委員：名古屋山岳同志会の亀井代議員、じねんじょ山の会の野村理事）。

>代議員総数51名中41名出席、委任状6名、代議員総数の過半数を超えているので、本総会は成立している。

ついで議長に、あつた勤労者山岳会の長谷代議員、ふわく山の会の登坂代議員、書記にふわくの辻村代議員、選挙管理委員におよこ山の会の飯田代議員、山の会「くらら」の北川代議員を選出し、議事に入りました。

第一号議案の「総括と方針」では、まず洞井会長・理事長が報告に立ち、登山をとりまく情勢について述べたあと、県連盟全体の一年間の取り組みについて概括し、とりわけ組織部では一般向け登山講座の実施、「プラス・ワン」の取り組みについて、婦人部の活動では、一つ一つの取り組みをどう婦人部本来の目的につなげていくかということについて、教育部では登山者教育や各会の会員教育の展望を持つことの重要性や登山学校の運営への関わり方などについて、遭対部では事故が多発していること、事故防止への具体的な取り組みが求められていること、自然保護では清掃登山の取り組みの問題点や各会の意識の問題などについて指摘しました。

次いで、各専門部長から、それぞれの取り組みについて総括方針について報告がなされました。

理事会からの報告が終了したところで昼食休憩。午後からは質疑応答にはいりました(午後1時現在で、代議員定足数51名中、43名出席、委任状8名代議員総数の過半数を超えているので、本総会は成立している)。

Q：県連の加盟団体を紹介したパンフの有無について。山を歩いていて声をかけたら山岳会について尋ねられた。パンフがあれば、それで紹介が可能だ。

A：いま、作成中なので。4月には配布できる。

Q：2000名の県連、23の山岳会で頭割りすると、1つの会で100名の会員を抱えることになる。会そのものを増やすということを考えたい。現状で2000名の目標は多いので、まずできる可能性のある数を掲げたらどうか。

A：2000人は2000人として掲げ続ける必要がある。かつて、500名の県連だった当時に自分をいれて1000名の県連を、という「999（スリーナイン）運動」が提起され、その実現に10年かかった。県連の会員数が右肩下がりになる前は1500名の会員がいて、2000名というのは手の届く数字だったと思っている。しかし、そのときに果たして意識的に追求をおこなってきたか、といえ、ほおっておいても会員が増える時代だった。それにあぐらをかいてきた結果が今だということ。できる数字をとということであれば、どういう数字を置くかが大事だと思う。大阪府連は三年がかりで減らした会員を元に戻そうという取り組みをして昨年まず100名増やした。愛知では、現在より各会一名以上、というささやかな提起をしてもこの数字だ。どんな数字を挙げるか、と

いうより、これまで減らしてきた会員数をどのように回復するかということと、全部の会が一緒に取り組もうという意思統一が大事だろう。

Q：登山講座に30代の男性が出席しているが、休みが合わないので実技に出られないという人も多い。山の勉強をしたい人はいっぱいいる。需要は必ずある。若い女性が増えているので、アピールをするべき。

ホームページを充実させた結果、問い合わせが増加した。若い女性も多く、読図やクライミングの参加希望者も多数いるが、組織に対して警戒心を持っている。山岳会のあれこれが煩わしい人がいるのも現実。無理やり参加させたり、縛るわけではないということアピールすることが必要ではないかと思う。

Q：事件事例の中で、転・滑落などの態様で分類されているが、その事故の裏に道迷いなどの要因があって、結果として転・滑落になったような例はあるか。

Q：山スキーの事件が3件あり、訓練不足、教育不足があげられ、個人の技能に依存するところが大きい。山スキーの力量を計る基準はあるのか。

Q：2010年10月・11月、鈴鹿の事故が多かった。ヘリコプターが連日出動し、莫大な費用がかかっている。

Q：凍傷の事例がある。本人に凍傷に対する知識はあったか。

A：M社の手袋を持っていった。本人は、痛くて我慢できなかったということはなかった、普段から自分の手の血の巡りが悪かった、と述べている。病院でも、油薬でも塗っておけばいいという診断だった。

Q：もっと他の病院に行けば、切断はなかったのではないか。

A：以前、凍傷の事例が報告されたが、そのときは切断しなくて済んだ。どこの病院に行ったらいいか、といった情報や凍傷に対する知識を通常からきちんと、全体のものにしていく必要がある。

第一号議案「総括と方針」に続いて、第二号議案「第42期決算」、第三号議案「第43期予算案」が報告され、質疑応答がおこなわれました。

Q：遭難対策基金はどれくらい残すのか。

A：遭難対策始動資金は毎年各会から2000円を徴収し、積立が276万1397円、これは事故の時、当座の資金としてすぐに使えるお金として一切手をつけてはならないお金である。遭難対策資金は遭難活動のために使うことができるお金で、いくらないといけないというものではない。

Q：これから繰越金が毎年減っていくことや、財政的に立ち行かなくなるということが言われているが、連盟費を増やしていくという考え方もあると思うが。

A：総会で決めることだ。ただ、ここで決めるにはまず提起して、会に持ち帰って、論議をしてもらって、その上で総会で提起して決めることになる。これまでの30年間で連盟費を値上げしたことは一度しかない。そのときも、これこれの金額なら何年はもつ、という何通りかのシミュレーションをして各会で討議をしてもらい、総会で決定したが、3年かかった。今は値上げをしようとは考えていない。

質疑応答のあと、採決に入り、第一号議案から第三号議案まで、保留0、反対0、賛成多数で可決されました。

ついで第四号議案の役員選挙がおこなわれ、立候補者全員が信任されました。

新役員は次のとおりです。

会長・理事長（兼務）：洞井孝雄（半田ファミリー山の会）

副会長：森和之（東三河山ぽ会）

副理事長：佐藤和男（あつた勤労者山岳会）

事務局長：足立彰（若駒山岳会）

財務：辻村すみえ（ふわく山の会）

会計監査：天池鉦次（アリス山の会）／服部幸雄（ふわく山の会）

理事：広畑洋一、馬嶋信二（あつた）／佐々木百合子（峠）／江島英輔（じねんじょ）／

松野晴代（スルジェ）／高士みどり（ありんこ）／宮田雄介（A S C）／吉川幸一（同志会）

／山中宮子（半田F）／河合美保子（東三河）／望月敏仁、馬場満津枝（ふわく）／二宮

直子（みどり）／西尾克明、美和一芳（くらら）

役員選挙の後、第五号議案の討議では、今期の一般向け登山講座の案内について報告があり、全員の拍手で実施が確認されました。最後に、退任する役員・理事のあいさつ、信任された新役員の自己紹介とあいさつがおこなわれ、閉会しました。

愛知県勤労者山岳連盟の登山講座へどうぞ。

4月19日（火）スタートです。

登山の基本、教えます！



安全な登山。まずは基本から。

愛知県勤労者山岳連盟では、2011年4月から、登山講座を開講します。愛知県勤労者山岳連盟は創立40周年。加盟山岳会23、会員数1100人の登山団体です。性別、年齢を問わず、四季を問わず、国内外を問わず、さまざまな登山志向の仲間たちが、山を楽しんでいます。

一昨年7月、北海道では中高年登山者が大量に死亡する遭難事故が起きました。それ以後も、さまざまな山域で、事故が相次いでいます。これらの事故の中には、登山者ひとりひとりが、基礎的な知識や技術、体力をもっていれば十分に防げたはずのものも少なくありません。悪天候にもかかわらず、出発を強行したツアー引率者、「おまかせ」状態で参加した登山者、途中で道に迷ってしまったり、転落や滑落による負傷や死亡事故、突然死…、いったい、何が問題だったのでしょう？

「山に登ってみたいけれど、どうしたらいいかわからない」「これまで一人で登っていたけれど、基本から勉強したい」…この講座は、そんなひとたちに、実際に山に登りながら、登山の基礎知識・技術を学んでいただける機会です。自分で計画を立て、自分の力で安全に楽しく山に登ることができる登山者を育てることをねらいとしています。多くの方の受講をお待ちしています。

日程と内容（理論講座の会場はすべて県連事務所です）

No.	日程	テーマ	内容
理論①	4月19日(火) 19:00～21:00	山に登る前に① －山に入る姿勢と計画	登山の意味と楽しみ。安全な登山における計画の大切さを学びます
理論②	4月26日(火) 19:00～21:00	山に登る前に② －山の装備と食糧の実際	登山に必要な装備・食糧について、その意味と使い方を理解します
理論③	5月10日(火) 19:00～21:00	地図の読み方・使い方	地図と磁石は山登りの基本です。地形図の読み方・使い方を学びます
実技①	5月14日(土)	まず、山に登ってみよう これが“登山”！	近郊の山に登って“登山”をまず体験してみるところから始めます
理論④	5月17日(火) 19:00～21:00	歩く技術と パーティー行動の基本	疲れのない歩き方の技術と、パーティー行動のルール、マナーを考えます
理論⑤	5月24日(火) 19:00～21:00	山の天気	トムラウシを例に、山の気象の読み方、対処の仕方を考えます
実技②	6月11日(土)	講座で学んだことを生かして登る	実技①より少しグレードアップ
理論⑥	6月14日(火) 19:00～21:00	まとめ －長く登山を続けるために	登山の危険と安全対策についてまとめます。簡単な救急法も

※理論講座と実技はセットです。実技だけの参加はできません。

▲定員：50名(性別、経験は問いません。初心者大歓迎ですが、健康であること)

▲受講料：5000円

※実技講習に交通費・保険料として実費(1回につき5000円～1万円)が必要です。

▲受講申し込み：申込書に記入の上、メールまたは郵送、FAXにて お申し込みください。

・メールアドレス：aichirousan@gmail.com

・郵送先：〒454-0055 名古屋市中川区十番町2-8栄和産業(株)ビル2F

愛知県勤労者山岳連盟

・FAX：052-654-1210

・問い合わせ：080-5713-8970 (足立)

▲ 申し込み締切 2011年4月15日(金)まで

教育部

第43期登山学校を開催します

【理論講座】理論講座はマウンテニアリング、クライミング共通です。

(※一部、先月の労山愛知から日程を変更しました。)

実施日	講師	講習名	講習内容
2011年 4月 3日(日) 8:30～16:30	洞井孝雄 (半田F)	登山運動の理念 ①登山の動機と意義 ②組織論 ③遭難事故の防止 ④自然保護 登山の計画～下山まで ①計画書の意味 ②装備	開校式を兼ねています。 なにげなく山に登っている自分をまず見つめてみましょう。登山者として必要な「山に入る姿勢」と、「なぜ山に登るか?」を考えます。また計画書の重要性を通して、自分が所属している山岳会の意味や、登山の危険と安全、その防止のための登山の基礎的な知識やルールなど、登山の基本について考えます。
4月 4日(月)	星野哲良 (ふわく)	岩登りの基礎Ⅰ	岩登りについての考え方、具体的・基本的な知識、用具の解説、ロープワークについて学びます。
4月11日(月)	星野哲良 (ふわく)	岩登りの基礎Ⅱ	岩場の登り方、確保の方法についての注意点など、クライミングにおける技術とルール、その実際を理解します。
4月18日(月)	洞井孝雄 (半田F)	登山の計画～下山まで 生活技術、行動技術	山での生活の基本、行動上の注意点、歩き方や危険箇所の判断・通過の仕方などについて学習します。
5月 9日(月)	洞井孝雄 (半田F)	パーティー論 ・リーダー論	パーティーが安全に登り、確実に下山するためにリーダーやメンバーが果たすべき役割と責任は? 考えてみましょう。
5月16日(月)	飯田征 (おやこ)	地図の読み方・使い方	地図の実践的な使い方、読み方について学ぶとともに、計画書作成に不可欠な概念図の書き方について学習します。
5月23日(月)	飯田征 (おやこ)	気象講習Ⅰ	天気図と山の天気についての基礎を学びます。天気予報だけではわからない、気象のあれこれが見えてきます。
5月30日(月)	飯田征	気象講習Ⅱ	天気図が書いても読めることが必要です。天候を予測した

	(おやこ)		り次の行動をどうするか、判断できるようになるかな？
6月 6日(月)	山本明美 (ふわく)	体力トレーニング論	登山に必要な体力づくりを効果的におこなう方法を学びます。自分自身で日常的に実践できるようになりましょう。
6月13日(月) 19:30～	未定	無雪期救助訓練(机上) ※県連行事	県連の救助訓練に参加します。山行中に起きた事故を想定した救助の基礎的で実践的な知識と技術を学びます。
6月20日(月) 19:30～	未定	確保技術講習(机上) ※県連行事	岩登りや沢登りに不可欠の確保技術。正確な知識と安全な確保とはどのようなものか、確保技術の理論を学びます。
6月25日(土) 午前～夕方	未定	救急救命法 ※県連行事	ファーストエイド、心肺蘇生法、止血法など、山行中のアクシデントや疾病に対処できる知識・技術を身につけます。
6月27日(月)	岩田宗則 (じねんじょ)	沢登りの基礎	岩登り、生活・行動技術など総合的な力を要求される沢登りという登山形態。その装備や技術について学びます。
7月 4日(月) 19:30～	洞井孝雄 (半田F)	登山の安全と危険	登山では危険のあることを知り、安全な登山をしていくことは登山者の責任。事故事例を検証したり、他に学ぶことで、どうしたら安全な登山ができるかを考えます。

開講時刻:19時 場所:県連事務所(名古屋市中川区十番町2-8 地下鉄「六番町」徒歩8分)。

登山学校の理論講座は、会員なら誰でも受講可能です。

「学びたい」と思う講座をチョイスして受講できます。この機会を有効に使いましょう！
有料(一講座500円)ですが、普段、会では学べない内容の講座がラインナップ。

講座当日19時までには県連事務所へどうぞ！

希望者には、県連登山学校のテキストを1000円で頒布しています。当日に配付する補足資料と合わせて利用して下さい。

自然保護部

3月17日第一回自然保護担当者会議を開催しました。

[出席者] 村田・吉川(同志会)寺本・堀田(春日井)服部(ふわく)水元(犬山マップ)鈴木(じねんじょ)北川・成田(くらら)千田・杉浦(半田F)松野(スルジェ)加藤・喜来(名古屋ASC)

佐藤(あつた)長尾(みどり) 11山岳会、16名

はじめに各会の担当者の顔合わせ、自己紹介の後、次の議題を議論しました。

1. 新年度の自然保護活動、日程などの確認——2010年度総会議案書 参照
第43期総会議案書に基づいて年間の活動計画の趣旨と日程を確認しました。
2. 鈴鹿御在所岳水質検査について
4月16日(土)朝7時集合で実施します。
4. 第38回鈴鹿山系清掃登山の実施について
自治体交渉の報告の日程——3月29日(火)で予定する。

検討課題としては、賛同署名の集め方は実行委員会で議論します。参加者を増やし社会的にアピールする上で各会の一般参加の呼掛けを強め、公開山行など工夫して取り組む

ことを確認しました。

5. 鈴鹿山系の自然観察について——各ポイントの継承と実施時期、
従来行ってきたポイントを継承したい。実施時期は各会で決める。
6. 各会合同鈴鹿山系自然観察会について
日程 9月4日(日)
場所及び内容の(案) ブナ枯れを起こす害虫の被害などの観察、など。
今まで懇談してきた研究者に講師を依頼する。
7. 雷鳥観察と学習の集い、について。
日程 7月30日(土)～31日(日) 講師 肴倉先生
場所 立山・室堂
8. その他の自然保護関係、日程——立山雷鳥観察会、長野県連主催
5月29日(日)立山室堂AM10:00集合

遭対部

4月1日(金) 第1回遭対部担当者会議を開きます

第43期・第1回の遭対担当者会議を下記の通り開催します。担当者または代理の方は万障繰り合わせの上必ずご出席下さい。担当者の初顔合わせとなります。

【とき】4月1日(金) 19:30～21:00

【ところ】県連事務所

【議題】①総会で決定された部の方針の確認

②年間の活動計画について

③救助隊要員の名簿と連絡網

④その他

4月15日(金) 春山合宿遭対連絡会議を開きます

各会の山行のリーダーの方または代理の方、計画書のコピーを各30部用意してご出席下さい。なお、計画中、あるいはまだのところもご出席下さい。同報告会議は、5月20日(金)に予定しています(セットです)。

【とき】4月15日(金) 19:30～21:00

【ところ】県連事務所

婦人部

第1回女性のつどいに参加を！

4月7日(木)19時半から県連事務所で開催します。先日の総会で次のような婦人部の活動方針が承認されました。

① 毎月、女性のつどいを開催します。

内容

実習：山の歩き方、反射神経とバランス力を鍛える、読図、星の観察、山の料理

学習：山の法律学、事故と保険について、山の道具の最新情報、女性特有の健康問題

② 各会の女性会員とのネットワークを作り、全会からの参加を得て、交流の輪を広げます。

③ 婦人部交流登山を実施します。

昨年度の「女性のつどい」には、延べ255名の参加がありました。今年度は、より一層充実した内容の女性のつどいを開催したいと思います。

第1回女性のつどいでは、方針を具体化してつどいの内容と担当を決めます。

婦人部の活動は連盟員ならどなたでも参加できます。各会から1名以上の参加をお願いします。

スケジュール

3月		4月		5月			
1	火	1	金	遭対担当1	1	日	
2	水	2	土		2	月	
3	木	3	日	登山学校 理論1	3	火	
4	金	4	月	登山学校 理論2	4	水	
5	土	5	火		5	木	
6	日	第43回定期総会	6	水	6	金	
7	月		7	木	女性のつどい1	7	土
8	火		8	金	理事会3	8	日
9	水		9	土		9	月
10	木		10	日		10	火
11	金	理事会1	11	月	登山学校 理論3	11	水
12	土	ライチョウ観察会	12	火	教育担当1	12	木
13	日		13	水		13	金
14	月		14	木	清掃登山実行委員会2	14	土
15	火		15	金	春山合宿遭対連絡会議	15	日
16	水		16	土	春の御在所岳水質調査	16	月
17	木	自然保護担当1	17	日	登山学校 実技1	17	火
18	金		18	月		登山学校 理論4	18
19	土		19	火	一般向け登山講座 理論1	19	木
20	日		20	水		20	金
21	月		21	木	組織担当2	21	土
22	火		22	金	理事会4	22	日
23	水		23	土		23	月
24	木	組織担当1	24	日	登山学校 実技C2	24	火
25	金	理事会2	25	月		25	水
26	土		26	火	一般向け登山講座 理論2	26	木
27	日		27	水		27	金
28	月		28	木		28	土
29	火		29	金		29	日
30	水		30	土		30	月
31	木	清掃登山実行委員会1				31	火

労山愛知締切:4月15日

ご意見・ご要望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com